

新高教上越支部 高校生フォーラム代替学習会

おとなフォーラム「COVID-19 高校生が考えたこと」からみる、
『高校生の思い』について

新高教上越支部(安塚分校) 山林 満

1. はじめに

新高教上越支部では2020年まで、32回にわたって「高校生集会／高校生フォーラム」を開催している。旧高田支部時代から続くこの行事は、支部内の高校生が、学校の枠をこえて、毎年テーマごとに自由に討論するという内容で、高田支部と直江津支部統合後は支部内13の高校に声をかけ、40～80人の参加がある。支部執行委員はじめ教員は助言はするが、準備会でのテーマ設定からフォーラム当日の司会進行と記録、分科会ごとの報告まで高校生が中心となって進められ、参加生徒は他の学校の生徒から刺激を受け、同じ地域、同じ高校生であっても様々な考え方があるということに気付くことができる行事であり、参加した生徒からも「今後も続けてほしい」という声が多かった。

しかし、COVID-19感染症の拡大にともない、学校は大きな影響を受けた。2020年度初頭からの臨時的な休業は6月までに終わったが、その後も安全確保を含めた学校運営や、生徒と教員の日常は対応を余儀なくされ、全国規模で部活動の大会やイベント、集会の中止・縮小が相次いだ。「高校生フォーラム」も十分な感染症対策を取ることが困難と判断し、2020年度の開催は見送ることとなった。

学校再開後は短縮化された日程と業務量の増大に追われ、それに加えて組合の行事や学習会、教研活動は軒並み中止またはリモート開催になった。この状況で、私たちが立ち止まって考える余裕を失ったことは否めない。また、いわゆる「コロナ禍」の中で、学校ではクラス単位、個別面談等で生徒との対話の機会を作ったり、状況を調査する機会は多かったと思われる。しかし、その内容を分析し、生徒と教員の今後にどのようにつなげていくか、横断的な情報提供と言えるものは少なかった。また、報道等に接する限り、高校生に広く意見を求めた調査もあまり記憶になく、また学校で行う対策や、様々な政策についても、高校生に対する配慮よりも学校や教員の都合が優先されているように感じられる。

新高教上越支部では、中止を余儀なくされた高校生フォーラムを来年度に「つなぐ」ためにも、今年度行えなかった学習会の形で代替することとした。また、停滞が続く教研活動がさらに先細りしないためにも、高校生の力を借りた教員への問題提起として、2021年2月に「おとなフォーラム」と題して開催を決定した。そのために、支部執行委員＝分会長の先生方にご協力いただける範囲でごく簡単ながら高校生にアンケートを行い、その内容を元に、学校や教員のあり方を検討する試みとした。また、「高校生フォーラム」には及ばないが、高校生が声を上げる場を、ささやかながら確保したい・とも考えた。

今回、新高教「同和」教育学習会において「COVID-19が顕在化させた教育の不平等」をテーマとするにあたり、高校生の意識を知る一助として報告させていただく。

2. アンケートの項目

アンケートの項目は以下の通りとした。わずかな時間で協力してもらうために、設問は極力少なくした。アンケートの選択肢は作成時の2020年12月段階で思いついた内容という限定的なものとなった。以下に項目を挙げる。

1. あらためて、2020年を振り返ります。以下の出来事の中で、あなたの印象に残っていることを挙げてください(複数回答可能)。

- | | |
|-------------------|---------------------|
| ア、2月末からの臨時「休校」 | イ、4月半ばからの臨時「休校」 |
| ウ、一部都道府県の「緊急事態宣言」 | エ、部活動、行事、大会などの中止 |
| オ、忙しい日程や短い夏休み | カ、飲食店やゲームセンターなどの休止 |
| キ、GoTo キャンペーン | ク、厳しくなった医療体制 |
| ケ、マスク・手洗いなどの日常の変化 | コ、その他(具体的に記入してください) |

2. COVID-19に関連して、あなたが不安に思うことはなんですか。以下から選んでください(複数選択可能)。

- | | |
|----------------------|---------------------|
| ア、学校で感染することへの不安 | イ、学校外で感染することへの不安 |
| ウ、学校での学習の遅れ | エ、部活動などの活動の停滞 |
| オ、進学への不安(学習、学費) | カ、就職への不安(求人減少など) |
| キ、COVID-19 関連のいじめ、差別 | ク、自分の収入減(アルバイト削減など) |
| ケ、不景気など経済の停滞 | コ、その他(具体的に記入してください) |

3. 2020年を振り返り、社会や、身の回りのオトナに「言いたいこと」をお願いします(COVID-19に関係していないことでも結構です)。

4. 2020年を振り返り、「あらためて考えたこと」「不安に思うこと」「自分はこれからこうしたい」と思うことなど、ありませんか?ひと言をお願いします。

5. その他、書き足りないこと、疑問や質問などあれば、お願いします。

3. アンケートの実施

アンケートは12月の支部執行委員会で各分会に協力を依頼し、12月20日までにデータを配付し、1月いっぱいまでに得られた回答を活用することとした。

4. アンケート回答数

- 回答生徒数 489人(1年生 140人、2年生 245人、3年生 104人)
- 回答分会 10分会(上越支部 全13分会)
- 回答延べ数 複数回答のため、設問1で最大1527の回答数。

5. 学習会

○日 時 2021年 2月13日(土) 13:00~15:00

○参加者 13分会18人

○内 容 アンケート結果(回答の比率、主な記述)を紹介し、参加者がそれぞれの意見をもとに討論

6. アンケート内容から(別紙参照)

1. 2020年を振り返って印象に残ること / 2. いま、不安に思うこと、…については、選ぶ項目が多く、やや煩雑だったせいもあるが、回答が分散した印象がある。しかし突然の2019年度末の臨時休業および、2020年度早々の臨時休業は初めての経験であり、これを選ぶ生徒は多かった。彼らに強烈な印象を残したことは間違いない。また部活動や大会、学校行事の中止を挙げる生徒も多く、彼らにとって学校の比重の大きさがうかがえる。一方で市中の飲食店、娯楽施設の休業には思ったより関心が高くない。

また、不安要素としては学校外、そして校内での感染への不安が半数近くを占めた。報道等では若者の関心の低さが強調され、学校再開も感染リスクが低いため問題ない、とされたが、不安を抱える高校生の気持ちとのずれが大きいのではないだろうか。また、予想通り、学年が進むにつれて、進路に対する不安が高まっていった。学年や年齢にあまり差がない項目としてはCOVID-19関連のいじめ、差別に対して一定の数の生徒が不安要素に挙げている。

また、3. 大人に対して言いたいこと / 4. あらためて考えたこと…については、非常に多様な意見が出てきた。慌ただしく協力してもらった面もあり、記述が少ないかと思っていたが、想像以上に様々な声を拾うことができたのではないだろうか。

高校生は行事や遊び、大会や学校に行くことも含めていろいろガマンしているのに、夜になると宴会して感染を広げる大人たちには、当然ながらかなり手厳しい意見が寄せられた。同様に、政府の対応などは高校生から見ても場当たりに感じられることがうかがえる。また、医療関係者を始め、身近な大人に至るまで気遣いを見せたり、自分で出来る感染症対策を述べるなど、しっかりした意識を示した生徒も多かった。また、進路についてはやはり先が見通せないことへの不安を書きつつも、投げやりになったり絶望したりする声は、学校でアンケートを書いているせいか、ほとんど出てこなかった。また、「学校が休めてラッキー」とか「すぐにでも休校を」と言う声が多数出てきてもおかしくはないが、意外に少なかった。友人同士で話すときやSNS上では別の声も上がるのではと思うが、残念ながら今回の手法では本音を引き出せなかったと考える。また、最後の疑問質問含め「ありません」「特になし」という回答が少なくなかった。丁寧に書いているのか、それとも得体の知れないアンケートには期待していないのか…。

7. 学習会での討議・発言内容から

この1年を振り返ると、教員自身、かつて経験したことが無い状況に追われていううちに時間が経ってしまった印象だろう。しかし、あらためて、目の前の生徒の意見を目にし、彼らの不安を改めて思い起こし、整理しつつ振り返る声が多かった。そんな中、

- ・「多忙な状況が加速し、不安な声を生徒から聞く機会を十分確保できていなかった」
 - ・「課題や再開後の授業についてはやるだけやったが教員の自己満足かもしれない」
 - ・「この1年間、「何か」を得たというイメージが残らない」
 - ・「そもそも『学校って何なのか』『オンライン授業で済むのか』と考えさせられた」
 - ・「不安な状況はまだまだ続くはずで、私たちがどう対応するか考えていきたい」
 - ・「学校行事があまり好きではなかったが、いいもんだなあ、と感じた」
 - ・「人間関係、SNS関係のトラブルが増えた。生徒もホッとする機会がほしいのだと思う」
- などの声があがった。本来であればもっと活発な意見交換ができたと思われるが、時間が少なく、進行に手間取ったために、参加してくれた皆様に申し訳ないと反省している。

8. 学習会参加者の感想から

- ・「他分会の様子を聞き、大変参考になった」
- ・「高校生のナマの声、意見を知ることができて参考になった」
- ・「生徒にとって学校が当たり前の日常だと改めて感じた。学校はあるだけで存在意義はあると思う」
- ・「この先、どのように生徒と接していくのか、指導していくのか考える機会を得られた」
- ・「行事合ってこそ学校生活が楽しいものでもあるので、少しでもやらせてあげたい」
- ・「学校により、目指すもの、対応のやり方が異なっていることが分かった。貴重な情報共有の場だった」

…最後に提出願ったアンケートには、以上のような声が寄せられた。生徒の声に耳を傾け、彼らの不安な点を理解し、それに寄り添いつつ、解消を図りたい気持ちは共通している。しかし実際にそれを生徒に向けた行動に移せないもどかしさもあるようだ。特に今年度は時間的余裕のなさや、再開後も授業内容の消化に追われたりもしたが、やはり私たちは、生徒と向き合う時間を少しでも取り戻さなければいけない状況にある。

9. 終わりに

今回、準備期間が短く、アンケート項目の精査も不十分のまま、各分会に調査をお願いすることになった。そのため、得られたはずの意見が拾えなかった可能性がある。また、支部執行委員＝分会長の先生方には「分会内への協力要請は最小限で構わない」「アンケートは、短時間で良いし、他の調査や課題にもぐり込ませるなど手法は問わない」と依頼した。そのため、アンケートを行う条件面を揃えることはできなかった。結果として得られた500というサンプル数をどう評価すべきは判断が難しい。ただ、日頃生徒と接する教員が、授業やHRで築き上げてきた関係の中で、生徒が意見を表明する機会を設けることは、やはり意義があったと考える。学習会参加者の感想にもあったが、次は得られた意見をもとに、「私たちがどう考え、どう行動するか」が問われることになる。いわゆるコロナ禍において「子どもたちの学びを保障する」という声は聞くが「子どもたちの学ぶ権利をどう守るか」という声はあまり聞こえない。今回のとりくみが学校が生徒の意見表明の場を確保し、「権利としての学び」を保障する場になっているか、あらためて考える機会となった。最後ですが、協力してくれた生徒、教員の皆様に感謝申し上げます。